

会報

みらい

目次

- p.1・「みらい」に寄せて
 - ・湘南希望の郷大規模改修工事が終了しました
- p.2・虐待防止の取り組みについて
 - 「重度神奈川後保護施設」
 - 「田浦障害者デイサービスセンター」
 - 「アガペ壺番館」

発行人：神奈川県身体障害施設協会 代表者：伊藤 崇博 編集：広報委員 印刷：アテイン

「みらい」に寄せて

神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害サービス担当課長 大澤 靖史

貴協会会員の皆様におかれましては、日ごろから本県の障害福祉の向上に多大なるご尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

このたび、4月1日付で障害サービス担当課長に着任いたしました、大澤です。

私事で恐縮ですが、神奈川県に入庁し、県庁の障害福祉主管課には今回で3回目の着任となります。最初の着任は平成14年度、支援費制度への移行準備の時期で、以後、障害者自立支援法の施行といった、まさに障害福祉分野の激動の直中でした。2回目は平成27年度に当時の障害サービス課に副課長として着任し、そして、今回が3回目となります。

私が障害サービス課から転出後間もなくの平成28年7月、津久井やまゆり園で大変いたましい事件が発生しました。2年ぶりに障害福祉課に着任し、今もって、事件の影響の大きさを実感しております。

特に、昨年度、策定した第5期障がい福祉計画には、津久井やまゆり園の再生を踏まえた取組として、重度障害者を含めた障害

者の地域生活移行の一層の促進を位置付け、今年度、意思決定支援やグループホームへの支援といった新たな事業に着手をしています。また、事件を受けて策定した「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念の普及・啓発に向けて、市町村や団体のイベントなど、あらゆる機会にご紹介させていただいているところです。

こうした取組を実効性のあるものとし、障がい福祉計画の基本方針でもある「ともに生きる社会かながわ」の実現には、現場の皆様の日々の支援の積み重ねが何よりも重要と考えております。貴協会の皆様におかれましても、これまで同様に、引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます、着任のご挨拶とさせていただきます。



湘南希望の郷大規模改修工事が終了しました

利用者さんが住んだまま工事をする手法により、平成29年4月29日より11月30日の約7カ月間に渡り総工費2億円の大規模改修工事を実施いたしました。今回の寄稿に当たり、老朽化した環境が綺麗に生まれ変わった事と、工事がもたらした新たな出会いについてもお伝えしたいと思います。

①31年積み重ねてきたもの（自信と誇りとホコリ）

31年積み重ねてきた、介護技術やそのノウハウは、先人の方々から現役世代に継承されております。しかしながら、また一味違った物も積み重なっておりました。それは普段の生活支援では行き届かなかった、隅々のホコリです。引越し作業時に一掃しました。今後は、専門業者の清掃により、ホコリが積み重なることの無いようにして行きます。



浴室（施工中）



浴室（施工後）



居室（施工中）



居室（施工後）

社会福祉法人 光友会
湘南希望の郷 施設長 小田嶋 悟

②心のふれあいと障害福祉理解促進

施設の中に様々な人々（工事関係者の方々）が出入りすることで、利用者さんにとっては新たな出会いが生まれ、コミュニケーションを取る



利用者さんと施設職員、工事関係者の皆さん

大変良い機会となりました。楽しそうに話合う両者の姿に新たな可能を感じました。また、工事関係者の方々には、障害福祉理解促進につながる良い機会となりました。大規模改修工事が生み出した、大変良い副産物だと思っています。

③光友会五つの輪の様に

4月29日から着工いたしました、湘南希望の郷の大規模改修工事が11月30日に終了となりました。工事期間中は利用者さんを始めご家族の皆様、職員の方々、管理部門職員、工事関係者の皆様のご協力により、事故もなく無事終了いたしました。まさに、光友会のシンボルマーク五つの輪を彷彿させる工事だったと思います。

関係した皆様に心より感謝申し上げます。

